

平成17年6月21日

平成17年度 学校協議会 記録

大阪府立槻の木高等学校
教育政策部 山本 尚

日時 平成17年 6月18日(土) 午後4時

場所 槻の木高等学校 応接室
(会に先立って、音楽棟にて吹奏楽の演奏鑑賞)

参加 浦岸さん (高槻1中校長)
岡山さん (高槻観光協会会長)
加治佐さん (兵庫教育大教授)
斉藤さん (大阪外国語大学講師)
吹田さん (槻の木高等学校 PTA 会長)
壺谷さん (元高槻市 PTA 協議会会長)
田鎖さん (京大セミナー取締役副社長)

校長、教頭、事務部長、藤原、秋元、浅田、山本

- 内容
- ① 学校長挨拶
 - ② 委員紹介
 - ③ 事務局紹介
 - ④ 会長選出 壺谷さん (満場一致)

会長(壺谷さん)挨拶

槻の木高校は我々の想像以上に伸びてきている。体育大会をみたが、本当にすばらしいものであった。

槻の木高校の生徒は「元気で明るい」「挨拶」「マナー」が優れ、これを伝統として引き継いでいってほしい。前校長が作られた土台を、松本校長の下、さらに強固なものにしていただきたい。

- ⑤ 今年度の学校の取り組みについて
秋元(教育政策室長)より
藤原(進路室長)より
浅田(学年室長)より

- ⑥ 質疑応答

加治佐さん 0時間目がなくなって、現在はどうなったか。

壺谷さん 今年のクラブ活動の活躍は。

壺谷さん 二期(前後期)制のメリット、デメリットは
また、府下何校ぐらいあるのか

- ⑦ 各委員より提言

吹田さん

700人を超える生徒及び保護者のすべての要求や希望にこたえるのは無理だと思うが、注目されている学校なので、一つの小さいことが大きくなってしまふことがある。目立たない生徒にも、是非、注意を払っていただきたい。今年度の目標は1期生の保護者を中心として「学校後援会」をつくっていきたいと考えている。

田鎖さん

私は公立高校の教師出身で、ラグビー部の顧問をやってきた。ですから、学校に来てまず見たいものはクラブ活動である。

最近、学校は変わってきている。しかし、今、槻の木高校の「学校教育計画」を拝見して、私の考えていたことがすべて記載されている。この計画によって教育をすすめていただきたい。

学校には「光」の部分と「影」の部分があるが、不登校のことなどの「影」の部分で、学校は臆することなくオープンにしてほしい。

浦岸さん

槻の木高校の先生方の頑張りが、現在では常識になってきた。今の義務制は完全に2極分化である。学力もそうだが、生活面でもそうである。小学校の学級崩壊も深刻であり、2こぶラクダの下の曲線が大きくなっている傾向にある。そんな中で槻の木高校は見事に学ぶ姿勢をつくられてきとこと、本当にすばらしいと思う。現在、中学校ではクラス集団や生徒の自治活動では生徒を変えることができず、解決の糸口は地域の協力しかないように思われる。

斉藤さん

この会に遅れて、玄関でさがしているとき、ある女生徒が声をかけてきた。明るく、親切に一緒に会場を探してくれた。槻の木高校の姿だと思った。学校にお願いしたいことは、音楽や芸術など、生徒の感性や心に響く取り組みをどんどん増やしてほしいということ。

槻の木高校の生徒が希望するなら、フィリピン総領事館との交流の機会をつくることができるかもしれない。

岡山さん

今年で3年目になる。これまでは槻の木高校が「どうあるべきか」ということを考えてきた。これからは3年間のビジョンで「生徒をどう育てるか」ということが大切。

高槻の町にもいくつかの大学があって、やる気のある生徒たちに「高槻の大学」のことを知らせてほしい。体験的なことを考えてほしい。

先生は生徒に対していい意味で上手に騙してほしい。

加治佐さん

自分自身、学校協議会のメンバーになっていい勉強になっている。槻の木高校のことは、ひとつの改革モデルになっている。

槻の木高校のユニークな取り組みの一つとして、「学校評価のシステム」があるが、次の教育に生かすため、何をもって評価とするのかを考えていく必要がある。

とりあえず、一期生の「出口」のことを楽しみにしている。

壺谷さん

島上のときからの変革をもっとアピールしていきたい。これまでの「槻の木高校」を評価する場をつくりたい。その結果を次回の学校協議会で報告させてもらう。

今回は11月頃、を確認して閉会しました。